

楽しいご法の習学

やくしん

2012 **5** 月号
躍進

特集
だから一人じゃない



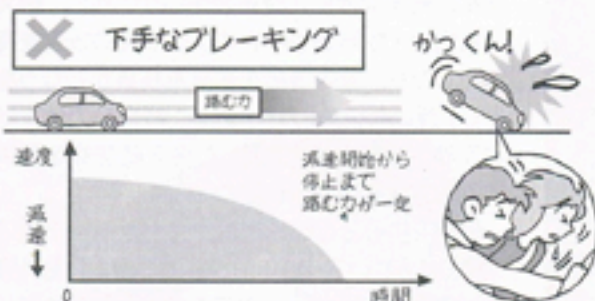
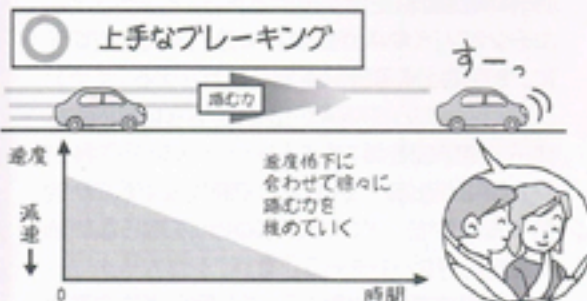
【レッスン⑤ ブレーキ操作】



プロフィール ● おおた てつや

レーシングドライバー、自動車評論家。1969年、群馬県生まれ。93年から、マン24時間耐久レースにフェラーリで出場。レース中の事故により重傷を負ったが、リハビリ生活を楽しみながらサーキットに復帰。チャレンジする素晴らしさを伝える社会貢献活動「NPO法人KEEP ON RACING」の代表を務める。「太田哲也とオヤジレーサーズ」「太田哲也スポーツドライブングスクール」を率いて、モータースポーツ文化に貢献。著書に、「クラッシュ」「リバーズ」(幻冬舎)など多数。

http://www.keep-on-racing.com



一般の人に運転技術や車の魅力を広めるために、レーシングドライバーを続けながら自動車評論の活動を行なう太田哲也さんが、運転上の見落としがちな盲点と、誰でもできる安全運転のコツを分かりやすく伝えていきます。

ブレーキング（ブレーキ操作のこと）を制する者は運転を制する、といっても過言ではない。それはレースにおいてももちろん、一般道においても重要度は同じだ。ただし腕の見せ所は違ってくる。レースではできるだけ短距離で止まること。一般道においてはむしろ同乗者にも優しい運転と安全運転を心がけること。ブレーキの踏み方が上手でないと、同乗者が不快になる。正しいブレーキング・テクニックを身に付けたい。

そのためにまず知ってほしいのは、ブレーキングという行為は、速度を弱めるだけでなく、同時に車の姿勢も変えるということ。専門用語で「荷重移動」という。ブレーキを踏んだ瞬間に車体は前のめりにな

る。強く踏めば踏むほど前のめり度が強まり、弱めれば元に戻る。つまり同乗者に快適な運転をするには、前のめりにさせない（急ブレーキを避ける）だけでなく、さらに車体になるべく揺らさないことも重要だ。

具体的な方法について話そう。皆さんはブレーキングのとき、ペダルを踏む力（以下、踏力）は一定だろうか？ YES、あるいは意識していない、と答えた人は、同乗者にきつい運転をしている可能性がある。

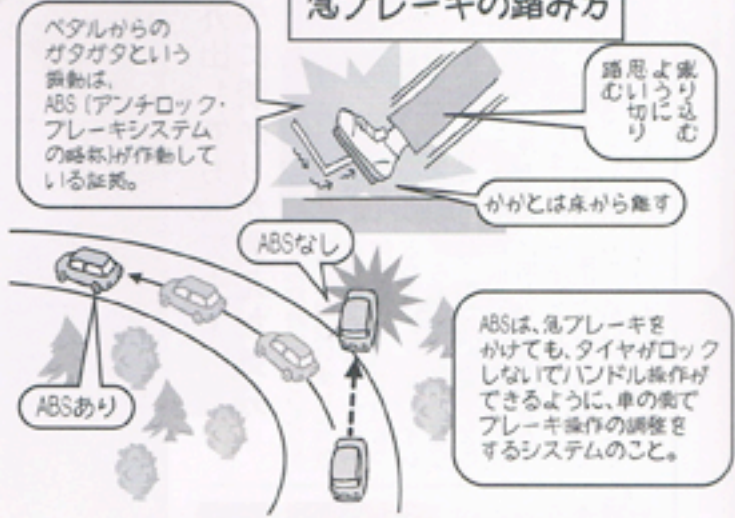
本来、ブレーキの踏力は速度の変化に応じて変えるべきなのだ。大きく重い物体が猛スピードで走っている。それを減じるには大きな制動力が必要だ。ブレーキング開始時点では大きな慣性力が働くので、強い制動力＝強い踏力が必要となる。スピードが落ちてきたら、強い踏力は不要となる。止まる寸前にかっくんと前のめりになるドライバーもいる。僕は知り合いなら注意するが、

【出かける前に点検を!】

JAF(社団法人日本自動車連盟)の、昨年のゴールデンウィーク期間における「ロードサービス救援データ」によると、全国における救援の出動理由のうち、一般道路では「バッテリーあがり」、「キー閉じこみ」が、高速道路では「タイヤのトラブル」、「燃料切れ」が上位を占めています。

ガソリンスタンドで給油は早めに行ない、同時にタイヤの空気圧とバッテリーの充電状態のチェックをするだけでも、トラブルの確率はぐんと減ります。

急ブレーキの踏み方



そんなタクシーに乗ると憂鬱だ。

多くのドライバーは停車する寸前にブレーキの踏力を緩めていると思うけど、同様の操作はブレーキングをしている区間でも行なうべきで、つまりブレーキを踏み始めてから速度低下に合わせて徐々に踏力を弱めることが必要だ。

重要なのは、ブレーキング区間において、一定にすべきなのは踏力ではなく、速度の落ち方なのだ。速度の落ち方をグラフで描いたとしたら、定規で引いたように一直線になるのが理想である。これが放物線のように落ちるとしたら、同乗者の前のめり度はきつくなっている。グニヤグニヤ線だとしたら、そのとき車体がカクカクして同乗者の体が前後に揺れているということだ。

実はサーキット場でレースドライバーが行なう激しいブレーキングでも、速度が落ちていくに従い踏力を弱めてタイヤのロックを防ぐことで

最大の減速効果をあげているのだ。

とは言っても一般道では緊急時を別として停止まで余裕があるはずだから、まずは緩やかにアクセルオフ。この状態で前のめりが始まったら、静かにブレーキの踏力を強め、スピードが落ちてきたら徐々に踏力を弱めていく。停止直前でさらに弱めて、同乗者がいつ停止したか分からないように静かに停止させよう。

ただし急ブレーキ時に備えて常日頃から後席の人にも背もたれを立ててシートベルトを締めてもらっておこう。また急ブレーキを踏む際は、教習所ではポンピングブレーキ(断続的にブレーキを踏む)を習っただろうが、現代の車はレースカーと違ってABS装置(イラスト参照)が付いているので、ペダルは思い切り踏む方がよい。ペダルからガタガタという振動が伝わってくるが、これが機械がポンピングしている証拠なのでかまわず踏み続けよう。